

**Overview:** 主の回復の中の召会生活の回復は、神の御旨に従った召会の当初の状態に回復することです。神の敵サタンは、特に、聖職者階級制度を用いて、召会を破壊しました。しかし、神は入って来て、召会を徐々に回復しています。16世紀、ルターは信仰による義認を回復しました。18世紀、ツィンツェンドルフは、召会生活を回復し、19世紀、ブラザレンは聖書に絶対的であったので多くの真理を回復し、さらに一歩進んで召会生活を回復しました。1933年から、私たちは、地方召会の行政と宇宙召会の交わりを回復し、命の中でキリストのからだを建造しつつあります。

### I. 主の回復の中の私たちの歴史は、組織や運動の歴史ではなく、回復の歴史です:

- A. マタイ19:8において、私たちは回復の原則を見ます:「初めからそうだったのではない」**1.**「回復」とは、初めに戻ることを意味します。私たちは初めに戻って、主の恵みを受けて神の当初の意図へ神が初めに定めたものへ戻る必要があります。**2.**「回復」という言葉は、当初あったものが、後に墮落し、破壊され、失われたので、それを当初の状態に、正常な状況に戻す必要があることを意味します。
- B. 召会の回復について語るとき、私たちが意味するのは、召会が当初あったが、後に墮落したので、召会を当初の状態に戻す必要があるということです。
- C. 主の召会の回復は、私たちが初めに連れ戻して、神の永遠の定められた御旨と召会に関する当初の意図を完成させます。

### II. 私たちは神の意図と完成、およびサタンの破壊する働きに関して、召会の回復を理解する必要があります:

- A. 新約は、神が召会に関して明確な意図、定められた御旨、目標を持っていることを啓示しています。まず、神は定められた御旨を持ち、それから入って来て彼の定められた御旨を完成します。
- B. 新約はまた、神の敵がどのように入って来て神の完成してきたものを破壊したかを明確に記録しています:**1.** サタンが神の完成してきたものを破壊する方法には、内側の面と外側の面があります:**a.** 内側の面は、神の民を損ない腐敗させることです。**b.** 外側の面は、神の完成したものを破壊することです。**2.** サタンはキリストの代替物を多く生み出し、キリストのからだを分裂させ、聖職者と平信徒の階級制度によってからだの肢体の機能を殺しました。
- C. 神は永遠の定められた御旨に満ちている神であり、永遠の定められた御旨を持っています。また彼はいったん何かを行なうことを決めたら、何も彼の思いを変えたり、彼を停止させたりすることはできません。ですから、サタンの破壊の後、神は入って来てご自身が以前に行なってきたことを再び行なうのです。
- D. 神が完成してきたことを再び行なうことが、彼の回復です。これは、サタンによって失われたり破壊されたものをすべて戻すことであり、ご自身の永遠の定められた御旨と当初の意図にしたがって召会を回復することです。』

### III. 私たちは召会の回復の必要を認識するために、召会の当初の状態と召会の墮落を知る必要があります:

- A. 召会の当初の状態には、以下の特徴がありました:
- 1.** 当初の召会の中には、信者たちの間に階級はありませんでした:**a.** 信者たちはみな兄弟であって、等級はありませんでした。**b.** 信者たちはからだの肢体であって、互いに平等に組み合わせられ、各自が自分の機能を果たしました。**c.** 信者たちはみな神の祭司であって、中間階級はなく、聖職者と平信徒の区別もありませんでした。
  - 2.** 初期の召会は、完全にこの世から分離されており、この世の中にありますが、この世に属していませんでした。
  - 3.** 当初の召会は、偶像を捨て、完全に神に語っていただいていたいました。』
  - 4.** 一つの地方にはただ一つの召会、一つのキリストのからだの表現がありました。
  - 5.** 諸召会は交わりの中で一でしたが、行政は各自で独立していました。また本部の召会はなく、連盟もありませんでした。
  - 6.** 諸召会はキリストをかしらとして尊び、聖霊に権威を持っていただいていたいました。
- B. 召会の墮落は、階級、この世との結合、偶像、分裂、神に語っていただかないこと、統一の組織を持つこと、キリストのかしらの地位を奪うこと、聖霊の権威を侵すことと関係がありました。』

### IV. 召会の回復は、徐々に進歩してきました:

- A. 第一世紀の終わり前に、主の回復は始まりました。一世紀また一世紀と、この回復は前進し続けています。
- B. 第十六世紀に、マルチン・ルターは立ち上がって宗教改革を始め、封じられていた聖書が解禁されました。彼は聖書に基づいて信仰による義認を回復しましたが、正しい召会生活は回復されませんでした:**1.** プロテスタントは、この世から分離されておらず、中間階級を除き去りませんでした。**2.** プロテスタントの間には、更に多くの分裂があり、各宗派は統一の組織を捨て去りませんでした。**3.** 各宗派はキリストに絶対的な地位を持たせず、聖霊に絶対的な権威を持たせませんでした。
- C. 第十八世紀に、ツィンツェンドルフが主によって起こされて、モラビアの兄弟たちを導いて召会生活を回復しました。彼らはこの世から分離され、階級の区別を除き去り、交わりと組み合わせを重視し、力を尽くして一を守り、形式上の統一の組織を除き去り、キリストにかしらとなっていただき、聖霊に彼らの間で支配していただきました。
- D. 第十九世紀に、主は英国で一群れの兄弟たちを起こしました。彼らはさらに一歩進んで召会生活を回復しました:
- 1.** 聖書はブラザレンの手の中で、真に開かれた書、光を放つ書でした。なぜなら、彼らは絶対的に主の言葉に従ったからです。多くの重要な真理が彼らを通して解き放たれました。**2.** 彼らは絶対的に階級を除き去り、共に兄弟であり、互いに肢体であり、相互の愛と交わりを特に重視しました。
  - 3.** 彼らは分派を除き去り、一の証しを維持しました。』
  - 4.** しかしながら、彼らはあるいくつかの面で失敗しました。そしてこの事のゆえに当時、主は西洋世界でどこにも前進することができなくなったのです。
- E. 私たちは極東における召会の回復の重要な点を見る必要があります:**1.** 1933年と1934年に、私たちは重大な事柄をはっきりと見ました。それは、召会は地方をその境界とするという原則です:**a.** 一方で、これは分裂と混乱を防ぎます。もう一方で、これはまた「超地方」の結合を防ぎます。**b.** 聖書の教えによれば、各地方の召会は直接、主の御前に生きるべきであり、かしらであるキリストに対して責任を負うべきです。**2.** 私たちは、召会の行政は地方的であり、召会の交わりは宇宙的存在であるという原則を守りました:**a.** 各地の召会には各自の行政があり、召会の行政は地方の境界を超えることはできません。**b.** 召会の交わりは地方的なものであるだけであってはなりません。そうではなく、それは宇宙的なものであるべきです。なぜなら、それはキリストのからだの交わりであるからです。**3.** 私たちは、各地の召会が統一の組織を持つてはいけないことをはっきりと見ました。なぜなら、すべての召会は直接かしらなるキリストの支配を受けるべきであり、聖霊の権威に直接服すべきであるからです。**4.** 私たちは普遍的な祭司職を重視しました。すなわち、私たちはすべての信者が祭司であるという事実を強調しました。**5.** 私たちはまた奉仕におけるからだの組み合わせを重視し、すべての聖徒たちに、共に組み合わせられて奉仕することによって、からだの原則を守るように勧めました。**6.** 私たちは召会の奉仕の実行を重視しました。』

### V. 主の回復は、今日のキリスト教とは異なっています。回復とキリスト教の間に妥協はあり得ません:

- A. 召会の回復は、私たちが聖職者と平信徒という非聖書的な制度から連れ出して、初めに戻し、神聖な啓示にしたがった召会生活の純粋な実行を持たせます。
- B. 私たちの間の歴史はいつも、妥協することなくキリスト教から完全に出来来る歴史です。
- C. 地方召会とキリスト教の間に架け橋があるべきではありません。私たちが私たちが何であるかであるべきであり、妥協も装いもせず、私たちとキリスト教の間の溝を維持すべきです。』

**第一日:** エペソ1:4 すなわち、この方は、愛の中で、御前に聖く傷のない者になるようにと、世の基が置かれる前から、キリストの中で私たちを選び、5 みこころの大いなる喜びにしたがい、イエス・キリストを通して、私たちを子たる身分へと、彼ご自身へあらかじめ定められました。

エペソ3:10 今、天上にある支配たちや権威たちに、神の多種多様な知恵を、召会を通して知らせるためであり、11神が私たちの主キリスト・イエスの中で立てられた、永遠の定められた御旨にしたがっているものです。

**第二日:** ローマ12:4 一つの体の中には多くの肢体があり、そしてすべての肢体が同じ機能を持っていないように、5 私たちも数は多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。

マタイ23:8 しかし、あなたがたはラビと呼ばれてはならない。あなたがたの先生はひとりであり、あなたがたはみな兄弟だからである。

ローマ12:2 またこの時代にかたどられてはいけません。むしろ、思いが新しくされることによって造り変えられなさい。それは、何が神のみこころであるか、すなわち何が善であって、喜ばれ、完全なものであるかを、あなたがたがわかまえるようになるためです。

**第三日:** 1コリント1:2 コリントに在る神の召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち、それと共に、私たちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ。彼は彼らのもの、また私たちのものです。

使徒行伝13:1 さて、アンテオケの地に在る召会には……預言者たちと教える者たちがいた。2 彼らが主に仕え、断食していた時、聖霊が言われた、「さあ、バルナバとサウロを私のために選び分け、私が彼らを召した働きに当たらせなさい」。

**第四日:** ローマ1:17 なぜなら、神の義は福音の中で啓示され、信仰から信仰へと至らせるからです。「義人は信仰によって命を持ち、そして生きる」と書かれているとおりです。

啓示録3:8 私はあなたのわざを知っている。見よ、私はあなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。なぜなら、あなたは少しばかりの力を持っていて、私の言を守り、私の名を否まなかったからである。

1テモテ2:3 …私たちの救い主・神…4 …はすべての人が救われて、真理の全き知識へ至ることを願っておられます。

**第五日:** 使徒行伝13:2 彼らが主に仕え、断食していた時、聖霊が言われた、「さあ、バルナバとサウロを私のために選び分け、私が彼らを召した働きに当たらせなさい」。

1コリント10:16 私たちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血の交わりではありませんか？私たちがさくパン、それはキリストの体の交わりではありませんか？17 一つパンであるからには、私たちは数が多くても一つからだなのです。それは、私たちがみなこの一つパンにあずかるからです。

**第六日:** マタイ13:33 彼はもう一つのたとえを彼らに語られた。「天の王国はパン種のようなものである。ある女がそれを取って、三升の粉の中に隠すと、全体が発酵した」。

ローマ12:6 また、私たちに与えられた恵みにしたがって、さまざまな賜物を持っているのですから、それが預言であれば、信仰の程度にしたがって預言し、

啓示録18:4 私はまた、天からもう一つの声がこう言うのを聞いた、「私の民よ、彼女から出よ。それは、あなたがたが彼女の罪に加わらないためであり、また、あなたがたが彼女の災害を被らないためである」。

啓示録2:6 しかし、あなたにはこのこともある。あなたはニコライの者たちのわざを憎んでおり、私も憎んでいる。

### 経験①: 召会はキリストのからだであり、人の組織ではない

当初の召会の特徴の一つは、救われた人たちの間に階級がなかったということでした。彼らはみな互いに肢体であり、相互に組み合わされて、共に仕えていました。

第一に、救われた人たちはみな兄弟であって、等級はありませんでした。主は地上におられた時、弟子たちにははっきりと告げました、「異邦人の支配者たちは人々の上に君臨し、偉大な者たちは人々の上に権威を振るっている。しかし、あなたがたの間では[すなわち、召会の中では]、そうであってはいけません。だれでも、あなたがたの間で偉大でありたい者は、あなたがたのしもべとなり、あなたがたの間で第一になりたい者は、あなたがたの奴隷とならなさい」(マタイ 20:25-27. 23:8-11)。…すべての信者たちは兄弟であって、みな同じ高さにあります。だれの方が高く、だれの方が低いという区別はありません。

第二に、すべての信者はキリストのからだの肢体であって、互いに平等に組み合わされ、各自が自分の機能を果たします。この事は、ローマ人への手紙第 12 章 4 節から 5 節、コリント人への第一の手紙第 12 章 12 節から 27 節、エペソ人への手紙第 4 章 16 節において、非常にはっきりと示されています。例外なく、すべての救われた人はキリストのからだの肢体です。…人は救われている限り、肢体であって、召会の中で自分の機能を持っており、すべての聖徒たちと組み合わされて主に仕えるべきです。

第三に、信者たちはみな神の祭司です。旧約には、イスラエルの民の間に祭司として仕える一群れがあり、イスラエル人の残りの人たちは一般の民でした。…しかし、新約には、召会の中にそのような中間階級はありません。むしろ、すべての信者は神の祭司であって、いわゆる聖職者と平信徒の間の区別はありません。正常な状態は、神のすべての民が神の祭司であることです。

偶像が神の内敵ですが、召会は神の証しです。もし召会に偶像があるなら、召会の性質は変わってしまいます。これは確かな事実です。使徒行伝第 15 章 29 節から、私たちは見ることができ、当初の召会は、非常に徹底的な方法で偶像を捨てました。

当初の召会には、人の意見も、人の制度もありませんでした。代わりに、信者たちは完全にその霊に聖書を通して語っていただいていたいました。彼らは神の聖書に地位を持たせ、神の聖霊に地位を持っていただいていたいました。

### 中高生編

あなたは召会について、次の三つのことを理解してください。

- i) 救われた人たちはみな兄弟姉妹であって、等級はありません。
- ii) すべての信者はキリストのからだの肢体であって、互いに組み合わされ、各自が自分の機能を果たします。
- iii) 信者たちはみな新約の福音の祭司です。

あなたが召会に関するこれら三つのことを見て、あなたの召会生活が調整され、引き上げられますように！あなたは神の家族の中の兄弟姉妹です。命の成長の程度に応じた機能の違いがあっても、人の組織の上下関係はありません。このことは、兄や姉が弟や妹を導き、顧みること否定しているのではありません。また、賜物のある肢体が聖徒たちを成就することを否定しているのではありません。召会生活の中の兄や姉、または賜物のある肢体は、愛の中で新人(福音友人、新しく救われた人、弱くなって集会に来なくなった人、キリスト教の追い求めている信者、引越して来た人、家族のメンバー)のために祈り、一対一の牧養を通して、彼らを育み、養い、成就します。これらの関係は会社の中の上司と部下の関係ではありません。

また、家族においては、愛の中の相互性があり、弟や妹も兄や姉を顧みることがあります。彼らは互いに顧み合います。会社の中には出世競争がありますが、神の家族、キリストのからだの中には、競争はなく、愛の中で互いに労り合い、育み合うことがあります。それは、からだ全体がからだ自身を建て上げるためです。あなたは若い時から、人の意見に従ってではなく、神の御言葉に従った召会生活を実行してください。ハレルヤ！

### 経験②: 主の回復の召会生活は、聖書の純粋な啓示にしたがっていただければならない

私は 1925 年に二一兄弟の務めと接触を持ちましたが、1932 年まで完全には主の回復の中に入っていませんでした。その時から、私は回復がキリスト教世界から出て来る過程を経過するのを見てきました。今日でさえ、私たちはキリスト教世界から徹底的には出て来てはいません。私たちの内側には、意識していなくても、依然としてキリスト教世界のものがあります。私たちは集会に来る時、良い語り手が私たちに語るのを期待するでしょう。性質において、これは堕落したキリスト教世界の要素と要因です。これは、ニコライ主義、聖職者・平信徒制度の邪悪な要素であって、主が憎まれるものです(啓 2:6)。なぜ私たちは、供給すべきものを用意して集会に来ないのでしょうか？ 私たちは、自分は弱いと言うかもしれませんが、良いメッセージを聞こうと期待することでは強いのです。私たちは、良い語り手のいない集会に行くことを好まないかもしれません。これは、私たちの内側に依然として残っている聖職者・平信徒制度のこうかつな要素です。

主の回復は、この非聖書的な制度から私たちを連れ出して、神聖な啓示にしたがった召会生活の純粋な実行の開始に連れ戻すためにあります。

私たちが純粋な召会生活のために立っているゆえに、他の人たちは気分を害してきました。しかし、私たちに何ができるでしょうか？パウロはガラテヤ人への手紙第 1 章 10 節で言いました、「もし私が、なおも人を喜ばせようとしているなら、私はキリストの奴隷ではありません」。もし私たちが人を喜ばせる者であるなら、パウロのように迫害を受けなかったでしょう。主の回復の歴史は、現在の邪悪な時代から出て来てその外にいる歴史です。私たちは、私たちとキリスト教との間の橋を焼いてしまいましたが、私たちのある者は、橋を築いて私たちを連れ戻そうとしてきました。私たちはすべての橋を焼く必要があります。地方召会とキリスト教との間に架け橋があるべきではありません。すべてのものは、その種類にしたがっているべきです。宗派は彼らの種類にしたがっており、地方召会はその種類にしたがっているべきです。私たちは妥協も装いもせずに、私たちが何であるかであるべきです。

### 在職青年編

主の回復の召会生活において、聖書が私たちの唯一無二の基準です。召会生活のあらゆる活動は、神の御言葉の純粋な啓示にしたがっているべきです。日本の文化、中国の文化、韓国の文化、西洋の文化、アフリカの文化などのどんな種類の文化にしたがってもいけません。なぜなら、召会は神の王国だからです。

歴史によると、第二次世界大戦後、韓国のクリスチャンは迫害を恐れず、基本的なクリスチャンの信仰(偶像の徹底的な対処を含む)を保持しました。しかし、日本のクリスチャンは迫害を恐れて、日本の社会と妥協しました。その結果、韓国では福音は非常に優勢になり、人口の四分の一がクリスチャンになりました。他方、日本では妥協によって、福音の力が弱められたので、クリスチャンは人口のパーセント未満です。ここでの教訓は、迫害を恐れて中途半端になると、社会からの迫害を免れることができても、結局、社会から本物だと見なされず、軽蔑されるということです。

あなたはキリスト教の追い求める心のある信者を愛し、彼らのために祈り、牧養する必要があります。しかし、キリスト教のシステム、特に一人が語り、みんなが聞くという聖職者階級制度については、徹底的に退ける必要があります。その様なシステムはキリストのからだの肢体の機能を殺してしまうからです。

あなたは会社においても、周りを恐れるあまり、ビクビクして臆病になってはいけません。まず、あなたが携わっているプロジェクトの本質的な必要が何であり、何が究極のゴールなのかをよく考慮し、理解すべきです。その後、前例に捕らわれずに、ゼロ・ベースで検討し、プロジェクトを推進するために必要な事を、信仰によって大胆に考え、発言してください。そうすれば、あなたの上司や同僚はあなたを尊敬するでしょう。アーメン！

## 詩歌 597

1. かみは創世のまえ、御子にありえらび、子たる身分あたえ、召会を聖となす。召会がかみの所有、聖霊の証印受く、それは嗣業の担保、またまえあじわい。
2. キリスト昇天して、すべてに超えつし、ばんぶつのかしら、召会そのからだ。かれ、万ゆう満たし、召会はその豊満、しょう会はかん全に かれを表現する。
3. かつて、つみに死に、世の潮流にならひ、にくよくにふけり、サタンにしたがう。いまや主とともに 復かつ、昇てんし、ともにてんに座す けっさくとなる。
4. 主はすみのいしで、使徒、預言者は土台、ユダヤ人と異邦人、建造されていぢ；かみのいえとなり、ともに建造され、霊にてちょう和され、主を安そくさす。
5. 召会かみのおく義、かみのごけいかく、キリスト住ませ、知恵をあらわす。主を理かいさせて、主を鑑しょうさせ、無限のあい満たし、主の豊満とする。
6. からだ、れい、のぞみ、主、信仰、バプテスマ、御ちち、みなひとつ、しょう会もひとつ。キリストの豊満の 身のたけの度量、われらはせい長し、ともに到たつす。
7. かく種のたまもの、召会はあたえられ、せい徒らを成就し、からだ建造する。ふるいひとを脱ぎ、あたらしいひと着、おもいの霊のなかで こうしんされる。
8. しみもしわもない 召かいをむかえんと、主は召かいを愛し、ご自身あたえた。おのがからだのよう やしないはぐくむ、キリストと召かい、大いなるおく義。
9. 召会はからだ、つま、住まいだけでなく、あく魔をほろぼす たたかうせん士。主の大のうにより ちからづけられ、かみの武具を着け、霊にありいのる。

1. 神在永遠創世之前，喜悅、揀選並豫定，要叫召會在子裡面，得子名分成為聖；得蒙救贖，作祂產業，受祂聖靈為印記，保證必得祂的基業，並得先享祂自己。
2. 基督升天坐在神右，遠超一切的勢力；神使祂作萬有元首，召會是祂的身體。萬有一切祂全充滿，召會乃是祂豐滿，祂藉召會普及、蔓延，召會彰顯祂完全。
3. 原是死在罪惡之中，隨從今世的風俗，

撒但、邪靈竟也順從，放縱肉體真可怒。

- 今與基督一同復活，一同坐在高天上，成為神的榮耀傑作，基督裡面所獨創。
4. 基督作了房角首石，使徒、先知為根基，照著神的奧秘啟示，猶太、外邦歸一體；在祂裡面同被建造，作神靈裡的居所；在靈裡面彼此相調，給神定居享安樂。
5. 神的奧秘乃是召會，神在永遠所計畫，為著彰顯祂的智慧，基督也可來安家。給眾聖徒明白基督，賞識基督的無限，知道祂愛超人領悟，充滿神性的豐滿。
6. 一身、一靈、同一指望，一主、一信並一洗，一位父神，眾人之上，召會因此當合一。認識基督，長大成人，有祂豐滿的身量；不再受到誘騙、牽引，不再隨風而飄蕩。
7. 基督賜下各樣恩賜，為要建造祂身體，成全聖徒各盡其職，愛中建造她自己。脫去舊人，穿上新人，再無從前的舊樣；心思靈裡得以更新，滿有主神的形像。
8. 基督捨己為愛召會，要使召會脫斑駁，聖潔，毫無瑕疵、污穢，作祂榮耀的配偶。祂愛召會，保養、顧惜，如待自己的身體；祂與召會成為一體，乃是極大的奧秘。
9. 身體、居所、新人、配偶，召會不僅是這些；也是戰士，為神爭鬥，將神仇敵全除滅。穿戴神的全副軍裝，賴主大能而剛強；靠主站住，靠靈抵擋，禱告隨時又多方。

## Hymn 823

1. God before the world's foundation  
Chose the Church in Christ the Son,  
That the Church might share the sonship,  
Holy, blameless, with Him one;  
That the Church be His possession  
With the Spirit as the seal,  
Of our heritage the earnest  
While His Son He does reveal.
2. To the throne Christ has ascended,  
Far above all rule and power;  
God has made Him Head o'er all things  
To the Church, His Body here.  
All in He ever filleth,  
And His fulness is expressed  
Through the Church, which is His Body  
And His image manifests.
3. We, once dead in our offences,  
Walking in the worldly course,  
Lusts of flesh and mind fulfilling  
Satan and his hosts their source,  
God with Christ has resurrected,

Seated in the heavenlies;

- We, His masterpiece, created  
In Christ Jesus, Him to please.
4. Jews and Gentiles are one body—  
God His myst'ry has made known—  
On apostles, prophets founded,  
Jesus Christ the cornerstone;  
We in Him are built together  
For God's dwelling manifest,  
Fitly framed by God the Spirit  
For His pleasure and His rest.
5. In eternal ages purposed  
That His wisdom be made known,  
Was the Church, His hidden myst'ry,  
Where the Son could make His home;  
That the saints may all in spirit  
Apprehend His boundlessness,  
Know His love which passes knowledge,  
All God's fulness to possess.
6. One in body, hope, and Spirit,  
One in faith, one Lord, the Son,  
One baptizing, with one Father,  
That the Church may thus be one;  
Christ to know in all His fulness,  
Unto manhood be matured,  
Ne'er by winds of doctrine carried,  
Nor by cunning men allured.
7. Many gifts the Lord has given,  
That His Body He may build,  
That the saints may be perfected  
And their ministry fulfilled.  
Thus we must put off the old man  
That we may put on the new;  
Thus, renewed in mind and spirit,  
We will bear God's image true.
8. Christ in love Himself has given  
That the Church be sanctified,  
Without blemish, spot, or wrinkle,  
To become His glorious bride.  
He does nourish her and cherish  
As a man his body treats;  
He and she become one body —  
Thus the myst'ry very great.
9. Body, house, new man the Church is,  
Bride, and temple, and yet more:  
She's the army too which fighteth  
All God's foe to triumph o'er.  
She is clothed with all God's armor,  
In His mighty strength is strong,  
Standing in the Lord, resisting,  
With all prayers she fighteth on